

令和6年度 横浜保育福祉専門学校 自己評価表

1. 学校の教育目標

目的（学則第1条）

本校は学校教育法および児童福祉法に基づき、児童の保育ならびに保護者への育児指導に関して必要な専門知識・技術および理論を習得させ、豊かな人間性を涵養し、国・地域社会が取り組む次世代育成に貢献しうる有能な人材を養成することを目的とする。

教育理念

人間性や社会性を大切にする人間性豊かな保育者の育成を目指す。

- ①子育て支援を担う専門技術の修得
- ②人間性と社会性の確立
- ③コミュニケーション力の涵養

教育方針（Curriculum policy）

- 1 子どもを深く理解できる保育の専門力を身につける。
- 2 主体的な学びを通して、保育者の実践力や社会性を身につける。
- 3 多様化する保育ニーズを把握し、時代に即した情報機器の技術、技能を身につける。
- 4 人間性や社会性を備え、社会に貢献する。
- 5 自分の思いや考えを口頭、文章を通して表現し意見を交わすことができる。

年次毎の育成方針

○1年次

前期は、基礎となる生活習慣、社会人の基本マナーの習得に注力、後期は、プレ実習を中心とした実習準備教育を構築、実習のための土台形成に力を注ぎます。2年次から始まる本実習での重要な要素の一つである書類作成能力向上に向けて、国語学習支援アプリケーション「すらら」を活用した漢字の修得や文章作成能力の向上を目指します。また、3年生との交流授業を通して、実習の即戦力として役立つスキル(実習力)の育成に努めます。更にアクティブラーニングを中心とした授業を展開し、主体的・対話的で深い学びの中から汎用的能力(コンピテンシー、リテラシー)の育成に努めます。

○2年次

実習振り返りの確実な学びの場として、口頭発表、スライド発表をおこないます。このことで、プレゼンテーション力も強化していきます。また、授業以外の学びの場(ボランティア等)を広げ、外部連携による実践力も磨きます。後期は、3年次に向けて、主体的・探究的な学習であるゼミナール活動の準備教育(プレゼミ)を始めます。学生同士の共同研究によってコミュニケーション力を磨き、更に専門性を高めていきます。

○3年次

現場と連携した実践的な授業をおこない、ゼミナール活動の集大成として、卒業研究発表、外部研究発表、教育成果発表に向けての指導に注力します。研究成果を正確に伝える表現力、課題を発見して解

決する力を身に付け、多様化する保育ニーズに適切に対処し、適応できる力を養います。更に、各地域の子育て支援活動、産学連携活動等外部の活動に参加したり、幅広く外部に発信したりします。社会の中で、保育力を磨き、子どもを深く理解できる保育の専門家の育成を目指します。

2. 評価項目の達成および取り組み状況

評価については、適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 としている

(1) 教育理念・目標

	項目	評価	状況・課題等
①	学校の理念・目的・育成人材像等は定められているか。	4	本校の設立以来、人間性豊かな保育者を育成することを目的とし、①子育て支援を担う専門技術の習得、②人間性と社会性の確立、③コミュニケーション力の涵養を教育理念として教育活動を展開。3年制の人材育成にかなった内容として定めている。
②	学校の理念・目的・育成人材像等が学生・保護者等に周知されているか。	4	学生へは「学生生活ハンドブック」を基に周知。教育方針は年度初めに確認し、日々実践すべき課題として意識づけている。また、保護者へは新入生保護者ガイドを通じて周知している。
③	学校の理念・目的・育成人材像等を公表しているか。	4	Webサイトにて公表。入学希望者には学生募集要項を通じて、周知している。

(2) 学校運営

	項目	評価	状況・課題等
①	理事会、運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に開催されているか。	4	理事会、岩崎学園管理職の会議、本校のグループリーダー会議や各グループ会議、教職員会議、就職会議、等を定期的に実施。
②	事業計画が定められているか	4	年度初めに立案。年度当初に立案した年度目標を各グループに細分化して計画を立案。毎月の定例グループリーダー会議において進捗状況の管理を実施している。
③	予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	年度初めに立案。定期的に支出状況を管理している。
④	就業規則等はあるか。	4	岩崎学園総務部にて、就業規則等の整備を行っている。
⑤	教職員一覧表（採用年、資格、年齢、学歴等記載）はあるか。	4	岩崎学園総務部にて、月次で更新。
⑥	業務分掌は適切か。	3	責任の明確化と業務推進の円滑化を目的としグループ制を導入。グループごとのタスクを明確化するとともに、個々人のタスクを明確化するための分掌を定め業務を推進している。
⑦	人事考課は制度化されているか。	4	年度当初にグループごとに策定した目標値への到達度などを考慮して夏冬賞与時、年度末において人事考課を実施。
⑧	出退勤が適切に管理されているか。	4	勤怠管理システムにより、打刻や出退勤の申請等、電子化で管理。

⑨	公印が管理されているか。	4	管理者保管。使用履歴を「公印簿」にて記載・管理。
⑩	教職員の健康診断を実施しているか。	4	年1回実施。また、ストレスチェックを実施し、教職員の健康管理を行っている。
⑪	情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	ビジネスコミュニケーションツールslackの使用により、情報共有を効率的に行っている。オンライン会議システムを活用し、一部の会議を対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施した。また岩崎学園全体のグループウェアにより、施設の予約管理、教職員の会議スケジュール管理などの効率化を図っている。また、学籍管理、成績管理、証明書発行等システムは随時仕様変更し、利便性を高めている。

(3) 教育活動

	項目	評価	状況・課題等
①	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	将来の職業専門性を視野に入れたキャリア教育を本校独自の制度として1年次の授業から展開している。
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	修業年限を3年とし、保育士養成施設としての適合性のみでなく、就職後に必要とされる知識、実践力を養うための十分な学習時間が確保されている。
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	保育士養成施設として体系的なカリキュラムを組んでいる。
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	社会人としての素養を身に付けるための授業として社会人基礎を実施。学園の産学連携・就職支援グループと連携したキャリア教育に取り組んでいる。
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	カリキュラムの作成・見直しにあたっては、保育士養成施設としての定めを遵守しつつ、「教育課程編成委員会」を設置。定期的な意見交換(年2回)の場を設けている。
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	保育所、児童福祉施設等における定期的な実習を実施。企業や行政と連携した産官学連携プログラムを積極的に展開している。
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	授業アンケートを年2回実施。また、保護者や学校評価委員を対象とした公開授業を行い、アンケートによる評価を実施。授業アンケートで得た結果を分析し、今後の授業改善に繋げていく。
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	実習先および就職先の保育園、施設等からの個別的評価を取り入れている。また、学校関係者評価委員会(学校評議員会)を組織し意見交換を実施している。
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	試験及び成績評価に関する規定において、学生に周知。各科目の具体的成績評価基準については、シラバスにて学生に周知。科目ごとにルーブリックを開示し、到達度別の評価指標をより明確化している。 また、科目再履修制度を導入し、進級要件を緩和している。
⑩	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	指定保育士養成施設の指定基準に基づく教育能力を備え、教育目標達成のための授業が可能な教員を確保している。

⑪	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	指定保育士養成施設の指定基準に基づき、専任教員および非常勤教員は、専門科目に関する実務に深い経験または、研究業績を有する。
⑫	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	教員は各自が専門分野において学会等が主催する研修研究発表などに参加。学生指導力向上のために外部研修の機会を活用している。また、7/27 合同就職説明会実施後に、出展法人と本校教職員が参加し、研修・意見交換会を実施。
⑬	非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	3	年度当初に非常勤講師との全体ミーティングを実施。本校 LMS スタログの操作方法についても併せて説明を行った。担当科目やカリキュラムに関する共有も隨時行っている。
⑭	インターンシップを実施しているか。	4	1年生に「ふれあいインターンシップ」を実施。年間を通じ子どもとの交流を中心に、保育の楽しさ実感、実習への不安軽減に繋げた。 また、教育課程に定めた実習とは別に、学生全員を対象に保育所、施設等においてボランティア・インターンシップを実施している。その他、商業施設・企業や行政と連携した教育活動も積極的に展開している。
⑮	キャリア教育を実施しているか。	4	就職ガイダンスでのキャリア教育のほか、施設長、卒業生ら社会人による講演会・座談会を開催。進行・運営にも学生が主体的に関わった。
⑯	学習成果の発表を行っているか。	4	卒業研究に関する発表会を 2 回実施(9/27, 1/31)。また、保育士養成協議会 関東ブロック学生発表会にて学生が卒業研究成果を発表(2/28)。横浜市共創推進課主催「地域共生ハッカソン」にも参加し、姉妹校や他大学との共同研究内容の成果発表を行った(2/23)。

(4) 教育成果

	項目	評価	状況・課題等
①	就職率の向上が図られているか。	4	就職希望者(88名/91名)の内定率100%。
②	退学率の低減が図られているか。	4	退学率は3.5% (昨年比-2.2%)。退学理由は、精神疾患に加え人間関係の躊躇等がみられた。専門家によるカウンセリング及び、担任による個別対応を強化。入学前セミナーの実施等により入学後の友人関係構築やスマートな学校生活への移行を図り、退学抑止に繋げた。
③	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3	卒業生については、実習巡回指導時や同窓会組織を通じて動向を把握するよう努めている。在校生は進級・卒業時に活躍した学生を表彰する褒賞制度を設けている。また、内部特待生制度(学費減免)を設け、学校活性化に資する貢献、学校の魅力発信への貢献、他の模範となる学習姿勢などを評価対象とし学生を公募。公正かつ客観的な成果を基に選抜を行っている。

(5) 学生支援

	項目	評価	状況・課題等
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	就職指導担当教員、岩崎学園産学連携・就職グループ専任職員および、各クラス担任教員が支援。
②	学生相談に関する体制は整備されているか。	4	相談窓口として全クラス担任制をとるほか、スクールカウンセラーを配置している。
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	学園・学校独自奨学生、学費月次分割納入制度、日本学生支援機構奨学生など複数の支援体制で対応している。また、学園の奨学制度や行政の行う保育士修学資金など給付型の奨学金制度の周知・活用を促している。
④	学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	年1回の健康診断(4月実施)のほか、実習前に抗体検査、細菌検査、蟻虫検査等を実施。
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	クラブ、サークル等の結成および活動支援。体育館、教室等の優先貸出、活動費補助などを実施。
⑥	犯罪防止・薬物乱用防止などの指導を行っているか。	4	神奈川県警の協力による「薬物乱用防止講座(7/22)」を実施。
⑦	災害発生時の指導を行っているか。	4	併設保育園と合同で避難訓練を2回実施(6月、11月)。
⑧	事故やけがを保証する学生保険に加入しているか。	4	加入している。
⑨	保護者と適切に連携しているか。	4	保護者への成績・出席状況の定期的な発送や担任による個別面談などにより情報共有を行っている。
⑩	卒業生への支援体制はあるか。	3	学園と連携し、卒業生のキャリア支援を実施。学園祭の際、同窓会(ホームカミングデイ)を実施。再就職を希望する卒業生に対して面談を行い、再就職支援を行っている。

(6) 教育環境

	項目	評価	状況・課題等
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	各実習室をはじめ教育活動に必要な施設・設備を備えている。 学生向け休憩・歓談スペースとして、図書室にサロンスペースを新設。交流の活性化がみられた。
②	防災に対する体制は整備されているか。	4	消防計画を策定し、自衛消防隊を組織している。災害発生時の帰宅困難者への対応として、食糧備蓄、防寒対策を実施している。

(7) 学生募集

	項目	評価	状況・課題等
①	学生募集活動は、適正に行われているか。	4	学生募集計画に基づき、広報活動を行い、学力および人物面を考慮し、入学者選抜を行っている。
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	入学案内書および本校ホームページにて掲載。日常の教育の様子はSNSやYouTubeなどの動画配信と併せて随時発信している。
③	入学者選抜方法が明示されているか。	4	学生募集要項に記載。入学方法ごとに出願期間、選抜方法等を記載。
④	学納金は妥当なものとなっているか。	4	学費のほか教材費等も含め、納入方法、納入時期とも

			学生募集要項にて明示。
⑤	入学予定者に対し学習指導・支援等は行われているか。	4	入学予定者全員に対する入学前セミナーを実施（9・10月・1月・2月に開催）。入学前教育として、保育分野の事前学習や確認テストを実施。入学後の学習指導の基礎資料としている。また友人作りを目的にレクリエーションを複数実施。入学後の良好な人間関係構築に繋げている。
⑥	入学（予定）者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	授業開始前に学生生活ハンドブックを活用したオリエンテーションを実施。新入生の親睦を深めるために、校外学習としてディキャンプを実施。

(8) 法令等の遵守

	項目	評価	状況・課題等
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	所管の神奈川県へ学則変更届出、現況調査（学生数・教職員数・卒業状況等）を実施。
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	学園で規定している個人情報保護方針をもとに個人情報を取り扱っている。また、学生募集要項にも個人情報の取り扱いについて記載している。
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	保育士養成施設の指定基準に係る適合状況に関する自己点検を実施し、所管の神奈川県に報告。 平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施し、学校関係者評価委員会（学校評議員会）にて報告。
④	自己評価結果を公開しているか。	4	平成25年度より自己評価並びに学校関係者評価を公開している。

(9) 社会貢献・地域連携

	項目	評価	状況・課題等
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	学校施設を利用し、親子向け食育イベントや神奈川県男女共同参画課と連携した「父子料理教室」を実施。また、子育て支援サロン「よこほっと Café」を在校生、卒業生、附属保育園、町内会、近隣保育施設協力のもと開催。地域の子育て支援に貢献した（令和6年度は月1回定期開催）。また、横浜市消防局防災イベントにて本校学生が運営や一時託児の補助を行った。 学校施設を活用した地域貢献としては、横浜市の災害時帰宅困難者一時滞在施設として災害時の施設提供に協力している。
②	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	他機関等との連携による講座（神奈川県専修学校各種学校協会による「仕事のまなび場」、総合学科高校と専門学校の連携による夏季講座）を実施。本校独自の高専連携講座も実施。
③	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	保育園、放課後児童クラブ、福祉施設等からのボランティア情報を周知し、積極的に奨励している。